



さわやか



育ちをつなぐ ～系統的な学級経営～

国語でも図工でも、学習はステップアップ、積み上げ型の形をとっています。基礎となる知識がなければ新しい知識は身に付き難いものとなります。だから「学びをつなぐ」とか系統的に学ぶということが大切にされています。

人の育ちにも順序があります。だから、「育ちをつなぐ」ための系統的な指導が大切です。そうした意味で、「子どもの実態に合わせて指導内容を選択、重点化する」のです。

各学年の実態に合った指導事項を確認してみてください。

ルールを身に付けると温かな人間関係が生まれる！

ルールと承認感、学級づくりの二大要素です。では、どちらが先かといえば「ルール」の徹底が先です（野中氏の「織物論」）。

ルールの徹底にはSST（ソーシャルスキルトレーニング）が有効です。

SSTを指導する場合は、「型を教える」とこと「快の感情を感得させる」ことをセットで行うことがとても大切です。この二つが成功すればルールも自然と身に付いていきます。必然的に温かな人間関係も育まれていきます。

本校でも、重点実践事項に挙げられています。

「いつやる？」「早い時期でしょ！」

グループダイナミクス ～日本の伝統的集団教育～

「グループ・ダイナミクス」私が大学生、または新採用教員の時代は、よく聞かれ、また実践対象となっていた社会心理学用語です。簡単にいえば、個人の行動や思考・価値観等は、集団から影響を受け、集団に対しても影響を与えることで、個と集団の相互作用によって、より効率的に個人の成長が図られるというような、「集団の力学的特性」のことを言います。

学級力の可視化 ～個と集団の相互作用で子どもがよりよく育つ～

個を高めることを通して質の高い集団に高める。集団の質が高まることで、個が高まる。その逆もあり。そのポイントは2つ。

一つは、自治的な活動を促進すること。もう一つは、学級目標を共有させ、その具現のための具体的実践事項を5つ程度、子どもにあげさせ、その実態をレーダーチャートに可視化することです。

可視化について、右の型を使って具体的に説明します。以下の順序で右の図を作ってください。

- ①子どもと話し合い、学級目標を設定する。
- ②学級目標を達成するための行動目標を5つ程度あげる。その際、ルールを守ることと、承認感を高めることは、前提条件として必ず設定する。
- ③現実態を、右図のようなレーダーチャートに表す。
- ④教室後方の壁面に掲示し、必要に応じて立ち返る。
- ⑤学期に一回、振り返りと反省・改善を行う。

